

くま ひで お  
熊井 秀夫 さん

明科・木戸区長。平成5年、郷土の歴史をつづった冊子「木戸の昔ばなし」の編さんにも携わった

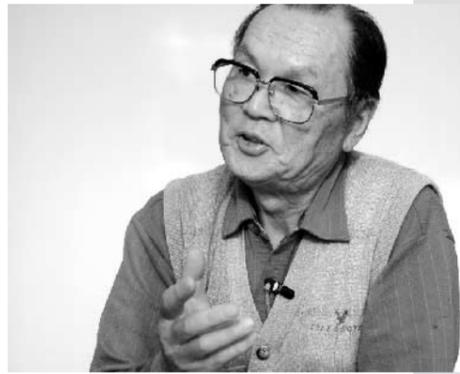


らく、川の周辺の人が近くの河川の草を刈っていて、それが、地域全体でやるういうことになったのではないかと思えます。特に、県や市からの依頼ということではありません。

もちろん、行政からも、いろいろ頼まれるわけですが、地域からお願いすることもあって、それを違和感なくやってきました。協力し合うことが大切だと考えます。

自治会は、横の連帯を集約してはいますが、より良い地域になれば、市全体も良くなると思っています。ただ、ほかの区で起きている加入率低下の問題など、人ごとでなく、皆でもう一度考えることも必要だと思えます。

木戸区は、明治から昭和初期にかけて犀川通船の本拠地として栄えるなど、川とともに生きてきた。左横写真は旧東川手村役場



由来不明の河川清掃

明科・木戸区は、市内で2番目に小さな区です。ほとんどが昔からこの地区に住んでいる世帯で、区には全世帯加入しています。

地区の西には犀川、東南には潮沢川が流れています。そして、明治時代には犀川通船の中継地として栄えたこと、あるいは度重なる災害に見舞われたことなど、川とともに生きてきた歴史があります。

区の行事として、毎年多くの住民が参加する河川清掃は、40年以上続いています。潮沢川には、雑草、ニセアカシアなどが生えてきて、伐採しないと、大水になったとき大変なことになります。

活動の由来は不明ですが、おそ

おも  
想い、活動、あれこれ。

市内80以上ある自治会には、それぞれの個性があり、共通点もあります。特徴ある運営や活動を行う団体の役員に話を聞きました。

運営に女性の声

女性の副区長は、私で5代目となります。誕生した当時は、男女共同参画が国会でも取り上げられ、ちよと話題になっていたころだと思えます。

女性が副区長として加わったのは、区の運営にも女性が入って、意見をとり入れていこうということなので、生活者としての視点を生かそうという狙いがあったと始まったようです。

いろいろな会議に出席する機会も増えましたが、女性は私ひとり意見も言いづらしい、もう少しいるといいなと思うことがあります。

いづれにせよ、私たちは、女性の区の運営に加わるという体制を続けていけたらと考えています。

たか やま きよこ  
高山 喜世子 さん

ほんむら  
豊科・本村副区長。本村区は、女性が副区長を継続的に務める市内唯一の区

本村副区長

玄関には副区長の表札が付けられていた

環境部の活動では、大変というよりも自分にとっては勉強になりました。時期によってマナーが徹底されていないときがあるという問題点を発見したり、集積所の改善点に気が付いたりして、ずいぶん関心を持つようになりました。

自分たちで地域を守ることとしていかなないと分別がつかなくなるというのが、私の実感です。

区でもプライバシーが問題になることもありますが、ふれあいも大切。私たちの区でも、高齢者の独り暮らしが増えていますし、900人中200人以上が70歳以上の高齢者です。家庭の中にまで踏み込む必要はないけれど、やはり、ある程度のごは把握してないとまずいかなという気もします。

特集◎私の自治会論

みず ま さとる  
水間 悟 さん

穂高・さわらびの里自治会長。副自治会長を1年務めた後、会長に。会長は対外的な活動や運営全般にあたっている

多くの地域住民の参加のほか、自治会員以外の人も協力があります。

市からの依頼についても、私自身は、地域の中で暮らしている以上、できることは、最低限はするべきだと思います。この地域は中心部から離れているので、行政とのつながりも大切だと思います。

私は、まだ勤めているということもあり、皆さんに迷惑をかけることが多く、役員さん、組長さんと連携し、相談しながら進めているのが現状です。

アカマツ林に囲まれ、別荘も多い



別荘含め、独自の活動

さわらびの里自治会は、平成8年、穂高・立足北河原に発足しました。地域には、別荘も含めて約200戸ありますが、その内、約60戸が加入しています。

公民館などの施設はなく、「区」という形はとっていませんが、ごみ当番、一斉清掃、防災訓練などの自治活動や、文書配布、社協会費・赤い羽根募金のなどの業務も行っています。

地域内には別荘も多く、アカマツの林に囲まれているため、一斉清掃のほかに、別荘所有者の皆さんから環境整備への理解をいただき、松の枝きりなども行っています。一斉清掃では、

